平成２７年度前橋工科大学　地域活性化研究事業　研究成果報告書（概要版）

１．課題区分・管理番号　　27-C005

２．研究テーマ名　　前橋中心市街地における絹文化の発信

３．研究期間　　平成２７年８月１日　～　平成２８年３月３１日

４．研究代表者　　工学部／　建築学科　　(職名)教授　(氏名)宮﨑　均

５．課題提案者　　上州文化ラボ（村上雅紀、森田達行）

６．研究成果の概要

（下欄には当該研究成果について，その具体的内容、意義、重要性等を、地域課題研究事業計画書に記載した「研究目的」と「研究計画・方法」に照らし、Ａ４で２～３枚程度で、できるだけ分かりやすく記載願います。文章の他に、研究成果を端的に表す図表を貼り付けても構いません。本学ＨＰにて公表しますので、公表できる内容としてください。）

前橋は、上毛カルタにも詠まれているように、かつて「生糸のまち」でとして国内で知られていただけでなく、生糸の銘柄、Maebashi あるいは Mayabashi として、ヨーロッパでも認知されていたといっても、過言ではない。前橋にとり養蚕・製糸は重要な歴史的資源であるといえ、かつては市内に製糸工場も多く操業していたが、それもすべて閉鎖され、現在養蚕・製糸との結びつきを示す痕跡は限られている。その原因のひとつには、太平洋戦争最末期の前橋空襲により中心地の 60 ないし 80 パーセントが焼失したことがよくあげられ、また産業構造の転換もその理由であろう。しかし、より肝要と思われることは、行政と市民ともに、これまで前橋が、地域固有の歴史的資産への認識を高めようとせず、むしろ失われるがままにしてきたことである。しかし、現在の山本市長は歴史資産調査会を設置し、前橋市民学芸員の養成コースを設けるなど、歴史資産の重要性を市政に反映させる施策を実施している。このような背景があるなかで、本研究は市民の視点で、前橋に残る養蚕・製糸の歴史を伝える遺産を蒐集・整理することを目的とする。この場合の市民の視点とは、これまでに知られ文化財的価値を認められている遺産だけでなく、市民自らの手で痕跡をたどり、遺産というべきものを発掘し、それらを広く認識させる方法を考える、ということである。

そこで、「前橋中心市街地における絹文化の発信」と題した本課題では、Q の街と呼ばれる前橋市中心市街地を核として、①かつての「生糸のまち」前橋をいまに伝える養蚕・製糸の遺産を調査し、②見学会をとおして参加者におけるかつての前橋の認識を高めつつ、③遺産の場所とその解説を載せた地図を作成し視覚化して広く周知することを目的としている。提案者の上州文化ラボ（代表村上雅紀氏）は、平成 25 年度の前橋市の市民提案型パートナーシップ事業で、「過去の市街地図・双六を活用した前橋市の歴史文化創造事業」が採択されており、この課題に相応しい団体と考えられる。

前橋は、「生糸のまち」といわれるが、現在実際に確認できるものは、数棟の繭を保管

していた倉庫のみといってよい。それを除くと、碑であったり、あるいは、かつてそこに製糸工場が建てられていたというような記録と伝承である。しかし、単に碑であっても、前橋にとっての意味は確認することができる。こうした遺産については、もちろんこれまでに紹介されている場合もある。本課題では、養蚕・製糸の遺産について、最終的な成果として構想した地図で採りあげる対象を想定しながら、当初、なるべく多く、一部は中心市街地の周縁部も含めてリスト・アップすることから始めた。現在、中心部では養蚕・製糸はもはや行われていないので、遺構として現存するものから、記録や記憶に残されたものを含めて、3度ほどの検討をとおし掲載物件を絞り込んでいった。したがって、最終的に地図化した範囲は、北は群馬大学医学部のある昭和町から、南は前橋駅前の表町を含む領域となった。ちなみに、昭和町にはかつて国立原蚕種製造所前橋支所（当時岩神町。現在は事務棟が敷島公園に移築され、前橋市蚕糸記念館となっている）があったのであり、表町には、いまも上毛倉庫が現存している。

見学会を企画したのは、より建築的な特徴を明らかにすることをとおして、かつて建物がもっていた意味を実感してもらうためであった。見学会を3回企画したが、実施できたのは2回であった。前橋には、現在「生糸のまち」を直截伝える建物などの遺構は少ないが、養蚕・製糸が築いた文化を確認することはできる。この主旨から、また前橋を近代のまちとして特徴づける要素といえるアーケードに着目し、第1回の見学会は、中央アーケードに商店街の許可を得て、実際に昇り、通常とは異なる視点から前橋を眺めることとした。第2回は、製糸の源流と実態を知るべく現在も操業している碓氷製糸（安中市）の訪問とした。かつて前橋市内に製糸工場は点在していたが、現在は消滅したので、その面影を知るという意味である（残念ながら、降雪のため中止とせざるを得なかった)。第3回は研究結果の報告でもあるまちなかカレッジに合わせた中心市街地の見学である。まず、今回の本研究の意図と目的を説明した後、中心市街地に残る遺産を、外部講師として市内の愛宕歴史資料館の太田氏、NPO法人街・建築・文化再生集団の中村氏をお招きし、解説していただき、時間としては1時間少々であったが、見学会を実施した。

またこの課題で着目したものに、食べ物があげられる。これには、繭をかたどった菓子もあるが、また製糸工場があった頃に、工女たちが食べたと推測される食べ物屋の確認やそこのメニューの検証なども、「生糸のまち」前橋をいまに伝えている重要な遺産として、発掘に取り組んでいる。建築への視点や、一見するだけでは認識できないが、伝統として確認できる遺産は、単に話しだけではなく、かつての前橋の性格や特徴を伝えているのであり、その点を核としたことに、本課題の意味がある。

課題の成果物としての地図については、データをまとめるところまで進捗できたので、前橋工科大学のホームページで公開することとした。

① 前橋ステーション跡

② 前橋駅

③ 上毛倉庫

④ 孝弾寺の蚕霊供養塔

⑤ 荻原系住宅

⑥ 上毛電鉄

⑦ 生糸検査所跡

⑧ 本町

⑨ 旧勝山社煉瓦蔵

⑩ 桑町

⑪ 下村善太郎の銅像

⑫ 提灯と生糸の取り枠を形取った街灯モニュメント（敷島、蛍沢橋）

⑬ 交水堰

⑭ 鯛の橋

⑮ 前橋煙害の碑

⑯ 楫取素彦功徳碑

⑰ 宮崎有敬翁紀功碑

⑱ 星野箭碑

⑲ 臨江閣

⑳ 日本最初の器械製糸工場跡

㉑ 愛宕神社「蚕市場設立の額」

㉒ 旧奈良製糸煉瓦倉庫

㉓ 旧安田銀行担保倉庫

㉔ 前橋乾繭取引所跡

㉕ 藩営前橋製糸所跡

㉖ 明政乾繭場跡

㉗ 国立原蚕種製造所跡

㉘ 市地毛織物記念館